



RAILWAY PHOTOGRAPHY & POETRY CONTEST 2023

鉄道写真詩コンテスト入賞作品集 写真と詩で伝える鉄道の魅力

国土交通省鉄道局長賞



ひたちなか海浜鉄道 美乃浜学園駅

「なんでもまゝるく」 船越知弘（茨城県）
戦争、対立、静い・・・
心に突き刺さる出来事が多いけど、
なんでもまゝるく収まるように
出来たらいいよね、
空に浮かぶ満月のように。

鉄 博 賞



JR只見線 第一只見川橋梁

「棧敷席にて」 松田昌美（長野県）
「ビーツ、ビーツ、ビーツ」
汽笛が三回 朝の山にこだまして
幕は切って落とされた
雨上がりの花道を
ゆっくりと ゆっくりと
進んでゆくショートタイム
その短く上演劇に
拍手喝采の大声援を
聞いたような気がした
それは私の心に湧き上がる
感動の嵐だったのかもしれない

鉄道写真詩とは

鉄道写真詩とは、「鉄道写真」に「詩」を組み合わせて鉄道の魅力や旅情を表現する芸術活動です。
いつもの鉄道、旅先での鉄道、その時々にとらえた鉄道の表情とともに作者の心情が伝わってきます。

Japan Network for Sustainable Transport and Environment
一般社団法人交通環境整備ネットワーク **ecotran JNSTE**

エコトラン賞

吉田優美（福岡県）

「追憶 またきんしゃいね」

太陽が西に傾く頃
ふと訪れた海沿いの駅
フォンと短い警笛を鳴らし
気動車が走り出す
ガタンゴトン ガタンゴトン
その音に遠い昔の記憶がよみがえる

気動車のドアの前
重そうな風呂敷包を母に手渡しながら
横に立つ私に少し屈んで
「またきんしゃいね」
「うん」と私が答えると
顔をくしゃくしゃにして
満面の笑顔を浮かべる祖母の姿
気動車の音がだんだん小さくなる
代わりに聞こえてくるのは
ザブンザブンザブンザブン
潮騒の間こえる駅



島原鉄道 古部駅

エコトラン賞

土屋恵理（三重県）

「春の彩り」

「シロツメクサの編み方を教えて」と
ずっと言っていたね君は

ドライブ中に寄ったこの田園地帯で
群生するシロツメクサを見つけた
春の装いで石造りのアーチ橋をくぐる
君の上をガタンゴトンと通過する列車
君は知らないけどそれは鮮やかな黄色で
暗れた春の景色に
もひとつ彩りを添えていたんだ



三岐鉄道北勢線 ねじり橋

エコトラン賞

赤沼奏空（愛知県）

「Stand By Me」

碓氷峠 廃線跡の
長く真暗なトンネルの中
私たちは汗だくになりながら
ひたすら歩き続けた

単調につづく枕木に
歩幅を合わせながら
ズンズン歩いていくうち
昨日まで頭の中であふれていた
悩みや不満が なぜかしても
ちっぽけなものに思えてきた

やがて見えてきたトンネルの出口で
光がまぶしい緑の木々を背景に
私たちは二人 写真を撮った
Stand By Me
この夏を決して忘れない



旧信越本線 横川・軽井沢

講 評

◇ 米屋こうじ Yoneya Koji 鉄道写真家



記録的な猛暑に見舞われた2023年の夏。行動制限もなくなり、開放された気分が鉄道の旅を楽しまれた方も多かったのではないのでしょうか。その一方で、物価高や出口の見えない戦争など、不安な空気が世間を取り巻くなか、人々は何処かに心の安らぎを求めているのかも知れません。満場一致で受賞した、船越知弘さんの「なんでもまゝるく」は、世相を読み、満月に想いを託した作品で心に響きました。

辻森章浩さんの「ふみきりまち」は、通過する列車の窓から一瞬見える、踏切の警報器を狙ったもの。肉眼では見えない瞬間を可視化できるのは写真ならではの、作画の発想に加えて、動いている車体を部分的に切り取って一枚の絵に仕上げた技術も高く評価しました。車体のオレンジ色のラインも効いています。詩の方では「人生で何度目の踏切待ちなんだろう」と締めくくられることで、現在から過去へ時間軸の幅が一気に広がって、物語に奥行きが出たと思います。

松田昌美さんの「棧敷席にて」は、只見線の有名なビューポイントでの作品。絶景を舞台に例え、観客になりきって表現するスタイルに楽しさを感じました。一瞬ドキッとするような、柴田穂乃佳さんの「たび」は、使い捨てカメラで撮影された作品。ラフに撮られた写真も軽妙な詩と合わさることで独特な世界を醸しています。

本コンテストも7回目を迎え、写真も詩も全体的にレベルアップしていると実感しました。

◇ 水無田気流 Minashita Kiriu 詩人・社会学者



今年で7回を迎える写真詩コンテストは、鉄道を軸とした人と人との関係性を感じられる良作が目立ちました。行動制限が緩和され、大勢での見送りやともに語らう人たちの姿も増えてきたようです。一方、戦争に国内の景気低迷など不穏な空気は否めませんが、今回国土交通省鉄道局長賞に選出された船越知弘さんの「なんでもまゝるく」は、そんな世相を柔らかに包み込むような快作でした。詩も、率直で強いメッセージをこんな風に穏当に表現するのは意外に難しいものですが、写真の月の美しさとひたちなか海浜鉄道のカラフルで静謐な佇まいとよく合っていました。

今回私が選出させていたいたのは、柴田穂乃佳さんの「たび」です。線路とその周辺に集う人たち、その真ん中に座る人物の素敵な笑顔を見ながら、冒頭2連続して「風邪を引いた」カリフレンスされ、初連では「疑った」のが二連目には「包まれた」と、あつという間に転換してしまう鮮やかさ。三連、四連目で自分の殻をあっさり破って見せて、終連でベトナムであったことを明かすという構成も素晴らしいです。「鉄道写真詩」はまず写真の印象が先立つので、このように地名を終連に置くことで読者の印象が深くなるのだと改めて感じました。毎年、新たな発見があるのも本コンテストの醍醐味です。

「詠み鉄」の皆さま、今年も誠にありがとうございました。来年も、皆さまの作品を楽しみにお待ちしております。

米屋こうじ賞



JR東海道線 三島・函南

「ふみきりまち」 辻森章浩（静岡県）
 踏切り待ちが好きた。
 どんな列車が来るのだろうと
 わくわくする時間。
 ふと立ち止まって、少しだけ
 考え事をする時間。
 知らない人たちと、
 一瞬だけ同じ場所
 一緒に待つ時間。
 この踏切待ちは、
 人生で何度目の
 踏切待ちなんだろう。

水無田気流賞



ベトナム・トレインストリート北

「たび」 柴田穂乃佳（高知県）
 風邪を引いた
 人が来た
 薬をくれた
 疑った
 風邪を引いた
 人が来た
 上着をくれた
 包まれた
 どうやらここは
 異世界らしい
 しかし誰が異世界と言ったのか
 どうやら檻の中で生きてきた自分だろう
 ここはベトナム
 Hello ベトナム

国土交通省鉄道局後援 一般社団法人交通環境整備ネットワーク主催

鉄道写真詩コンテスト2023 ー写真と詩で伝える鉄道の魅力ー

協力：鉄道博物館・東武博物館・日本現代詩歌文学館

協賛：旅の手帖 ・ 交通新聞社 ・ 関東交通印刷

鉄道×文学の新しい表現に挑戦！ あなたの撮った鉄道写真にあなたの詩を添えて

「鉄道写真詩」は、「鉄道写真」に「詩」を組み合わせて鉄道の魅力やその旅情を表現する芸術活動です。

本コンテストは、その登竜門としての役割を担うもので2017年に第1回を開催し、今回で7回目となります。作品は2023年7月1日から9月30日の間、ホームページの応募フォームより受付を行いました。

多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

本コンテストの作品及び過去の実賞作品は、ホームページでご覧いただけます。



<https://ecotran.or.jp/photo/2023/>

エコトラン賞

須永真弘（埼玉県）

「心の色」

大阪に付む始終点の駅
 都会に響く乾いた雑踏が
 数多の路線網のように絡み合う
 出発を待つマルーンの列車は
 乗客の心情により色味を変えていく
 心に寂しさを感じる
 暗く滲んで見えるだろう
 心の舞い上がるのがあれば
 燦然と輝いて見えるだろう
 「安全よし」扉が開まる
 列車は定刻に駅舎を後にした
 流れゆく車窓と対峙する
 大都会のキャンパスはひたすらに忙しい
 淀川を渡った先、ふと天を仰いでみる
 あなたには何色の空が見えるだろうか



阪急電鉄 大阪梅田駅

エコトラン賞

丸山かおる（埼玉県）

「ワンダーチャイルド」

胸が高鳴る
 心が躍る
 きみに会える！
 ぼくの中の
 ワンダーチャイルドがはしゃぐ
 少し歩く
 歩きながら考える
 きみを待つ時間は
 ぼくの愛おしい
 内なるじこに会える時間



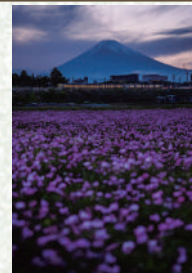
大井川鉄道

エコトラン賞

塩川里美（静岡県）

「君を待つ」

君を待つレゲ畑で
 君の乗る夕暮れ列車
 車窓の灯りは
 レゲ畑を照らすかな
 ボクを照らすかな



JR御殿場線 裾野・岩波

エコトラン賞

猿田 茂（大阪府）

「朝日」

同じ時刻の電車で出かけ
 同じ時刻の電車で帰る
 そんな毎日の繰り返しの中で
 ふと窓に映る景色の
 移ろいに気づくことがある
 この間までは暗かったな
 車窓から差し込む陽の光が
 体中に染み渡っていく



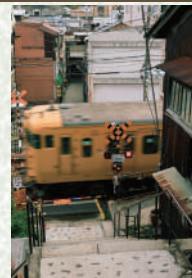
阪堺電車 大和川鉄橋

エコトラン賞

鈴木悠史（東京都）

「旅先レトロチック」

千光寺前 駅の踏切で
 末期色がゆっくりと進む
 レトロな景色が広がり
 時の流れを感じる
 レールの上を走るJNR
 鉄の響きが懐かしい
 窓から覗く風景は
 昔の日々を思い出す
 車窓に映る街の喧騒
 鮮やかな色彩が踊る
 千光寺の名にふさわしく
 「一里聞て」一里のびく
 モーションブラーの光跡
 時が刻む美しい瞬間
 尾道の街並みとともに
 心に刻まれる風景だ
 駅近くで黄5号を見る
 レトロ感漂うその瞬間
 心が躍り、思い出す
 過去と未来が交差する



JR山陽本線 尾道・東尾道